

府中市立府中第三中学校 学校だより 《第3号》 令和8年7月3日



敬愛

校長 稲葉 高広

〒183-0027 府中市本町4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

支えあう心が力になる

校長 稲葉 高広

サッカーのワールドカップ2026に向けた日本代表チームの歩みや選手たちの姿から、スポーツのもつ力や仲間とともに高みを目指すことの尊さを強く感じます。世界の強豪と戦うために、日本代表の選手たちは日々の準備を重ねていますが、そこに見えるのは特別なことではなく、チームとして大切にすべき「当たり前」を徹底し続ける姿です。代表選手の多くは、普段、国内外の異なるチームに所属しています。しかし、代表として集まると、限られた時間の中でミーティングを重ね、「どのように戦うのか」「自分の役割は何か」を全員で確認します。試合中も短い言葉でコミュニケーションをとっている姿が報道されています。

また、怪我で試合に出られない選手もチームに帯同し、リハビリに取り組みながら仲間を支えています。試合に出るかどうかに関係なく、チームのために自分にできることを考え、誠実に取り組む姿勢は、私たちに大切なことを教えてくれます。

さらに、試合中のベンチの選手たちの姿にも注目すべき点があります。ピッチに立たない選手も声をかけ励まし続けることで、仲間に安心感を与えています。実際にプレーしている選手が「ベンチを見ていると力が湧く」と語っていますが、「一緒に戦っている」という実感がチームの力を高めています。「一人ではない」「孤独ではない」と感じられることが、人の力を大きく引き出すのです。

こうした姿は、学校生活にも通じます。学校の内外を問わず、集団で活動する場面においては、一人ひとりが同じ方向を向き、それぞれの役割を果たしながら、互いに支え合うことが大切です。そこで、本校の生徒にぜひ意識してほしい三つのことがあります。

一つ目は、同じ目標に向かうことです。学級活動でも、部活動でも、学校行事でも、「何のために取り組むのか」が共有されていなければ、力は一つにまとまりません。目標を確認し、全員で同じ方向を見ることが、よりよい集団づくりの出発点になります。

二つ目は、自分の役割を果たすことです。集団には、中心となる人、準備をする人、支える人、声をかける人、周りをよく見て動く人など、さまざまな役割があります。大切なのは、「自分の役割を小さいと思わないこと」です。一人ひとりの誠実な行動が積み重なって、学級や学年、さらには学校全体の力となっていきます。

三つ目は、当たり前を徹底することです。時間を守る、あいさつをする、片付けをする、人の話をしっかり聞く。これらは特別なことではありません。しかし、こうした日常の行動を大切にし、どの場面でも続けることができる集団は、周囲から信頼されます。

信頼される学校づくりは、日々の小さな積み重ねから始まります。

大きな舞台で力を発揮するために大切なのは、本番の日だけの努力ではありません。普段の生活、日々の準備、仲間との関わり方がそのまま本番での力につながります。これは学校生活においても同じです。授業、清掃、係活動、委員会活動、部活動、そして日々のあいさつや言葉遣い。その一つ一つが、生徒自身を育て、学校の雰囲気をつくっています。

強いチームは、特別な誰か一人の力だけでつくられるものではありません。一人ひとりが、自分にできることを誠実に積み重ねることで生まれます。本校の生徒たちにも、「同じ目標」「役割の自覚」「当たり前の徹底」を大切に、仲間とともによりよい三中をつくっていくことを期待しています。

生徒支援部

6月20日（土）の午後、府中市青少年対策第三地区委員会主催の「地区座談会」が開催されました。多くの三中学区の小中学校の保護者、地域の方、関係機関の皆様、教員が参加されました。

最初に、JCOM マーケティング株式会社の方を講師とした『ネットとスマホトラブルの傾向と対策』をテーマとした講演を伺いました。その後、参加者が各グループに分かれ、「1 ネットとスマホトラブルの傾向と対策 スマホの使い方・トラブル」と「2 学校外での子どもの生活についての悩み 困っていることはありませんか？」の2つのテーマについて話し合いました。

お話を伺うと、それぞれのご家庭で様々な悩みや不安があるようでした。その中でも共通していたのは、スマートフォンの使い方についてでした。多くのご家庭で、ルールを決めてお子様に使わせていますが、「ルールが守られない」「ルールが形骸化している」ということでした。「ルールをさせるにはどうすればいいか？」という話も出ていました。「ルールをさせること」はとても難しいことですが、「ルールの意味を考えさせること」や「ルールを自分で作らせること」など参考になるご意見もたくさんありました。

7/21(火)から夏季休業になります。大人の目が届かない中で「自由に行動できる時間」が増えます。スマートフォン等に触れる時間も増え、そこから生まれる犯罪やトラブルに巻き込まれる可能性も必然的に高まります。学校では、夏季休業前の7月10日（金）に「セーフティ教室」を実施して、府中警察署の方から生徒にSNSの使い方を中心に、夏季休業中の生活で注意することについて講演していただきます。また、参加をしてくださる保護者の方と教員に警察の方を交えて、懇談会も実施します。

このような取組や授業等での啓発、学活等での日常的な声掛けで、生徒の「意識向上」を図っています。しかし、スマートフォンは家庭の判断でお子様に持たせているものです。そのため、学校にできることは限られています。やはり、スマートフォンの使い方の改善等については、ご家庭での指導が最も重要です。思春期のお子様との関係では、たくさんの悩みが尽きないかと思いますが、夏季休業前のこの時期に、もう一度、スマートフォンの使い方等についてご家庭で話題にいただき、お子様が日々安全に過ごせるようにしていただければと思います。

なお、「セーフティ教室」は、今からでも希望する保護者の方はご出席いただけます。詳細は6月26日（金）に配布したお知らせをご確認ください。

学習進路部

総合的な学習の時間の取り組みについて

- 第1学年は、ふれあい自然教室の事後学習が終わりました。制作したポスターを廊下に貼り出して全員で見合っています。定期考査に向けて、テストの受け方などのルールを確認しました。2学期に実施される合唱コンクールに向けて、自由曲決めを行っています。
- 第2学年は、2学期に実施される職場体験に向けて職業調べを行い、クラスでの発表を行いました。現在体験先の確保のため、各事業所と連絡を取り合っています。
また、上級学校訪問に向け、事前調べやマナー学習を行っています。
- 第3学年は、修学旅行の事前学習が終わりました。
制作した新聞を廊下に展示してあります。当日のコース作成がはじまっています。

進路指導

6月20日（土）に第1回進路説明会を実施いたしました。
第3学年だけでなく、第1・2学年の保護者も多数参加していただきました。
2学期の9月8日（火）に高校の先生の話聞く会を予定しています。
現在、来校いただける高等学校と交渉中です。

経営支援部

ICT機器を安定して活用するために ～ご家庭へのお願い～

本校では、生徒一人ひとりの学びを充実させるため、生徒用PCを日常的に活用しています。学校と家庭の双方で同じ端末を使用することで、学習の幅が広がる一方、使用方法によっては、機器の不具合や動作の不安定さが生じることがあります。

前号でもお知らせしましたが、ICT機器を安全かつ快適に利用するため、改めて次の2点の徹底にご協力をお願いいたします。

- ① 学校から帰宅する前に、必ず電源を切ること
- ② ご家庭で使用した後も、必ず電源を切ること

PCは、電源を切らずにスリープ状態のまま持ち運んだり、学校と家庭と異なるネットワーク環境で使用したりすると、Wi-Fi接続や各種機能に不具合が生じる場合があります。そのようなトラブルを防ぐためにも、使用後は電源を切ることを習慣化するとともに、必要に応じて再起動を行うようご家庭でもお声掛けをお願いいたします。

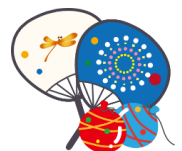
学校でも継続して指導してまいります。端末を長く安全に活用し、学習活動を円滑に進めるためには、ご家庭でのご協力が欠かせません。今後とも、本校のICT教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

教務部

- ◆ 夏休み入ってすぐの1週間で、三者面談を実施します。
1学期の学校での様子、学習の様子などお伝えする予定です。
日程等については、担任の勤務や出張の都合で延長される場合があります。
詳細は、配布されるお知らせでご確認ください。
- ◆ 7月17日(金)終業式の日(4時間目)に、「学習課題質問教室」を実施します。
具体的には、生徒が通知表の自分の評価・評定を確認した後、自分自身をもっと良くするためにはどうしたら良いのか、得意分野を伸ばし、苦手分野を克服するためにはどうしたら良いのか等を教科担任に聞きに行くことができる時間をつくります。
希望制ですので、質問のない生徒については教室で自習となります。

三中生の活躍

(敬称略)



陸上競技部

「第77回東京都中学校地域別陸上競技大会」

男子東部共通	円盤投	「第2位」	3年	吉田	湊祐	27m13
男子東部1年	1500m	「第2位」	1年	高橋	旺佑	4分44秒68
	100m	「第3位」	1年	嶋原	大和	12分68秒

「第72回全日本中学校通信陸上競技東京都大会」

男子共通	800m	「第3位」	3年	吉野	和紀	2分00秒21
男子共通	円盤投	「第6位」	3年	吉田	湊祐	26m46
男子1年	1500m	「第7位」	1年	高橋	旺佑	4分37秒84秒

男子バスケットボール部

「第九ブロック中学校バスケットボール選手権大会」
男子の部 「第3位」

男子都大会出場決定!!
おめでとうございます!

バドミントン部

「第九ブロック北南地区バドミントン選手権大会」
女子団体 「第3位」
「第七・九ブロックバドミントン選手権大会」
男子団体 「第3位」

男子団体
都大会出場決定!!
おめでとうございます!

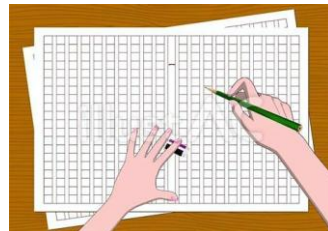
女子テニス部

「第52回東京都中学校総合体育大会第9ブロック予選」
「第5位」

女子団体
都大会出場決定!!
おめでとうございます!

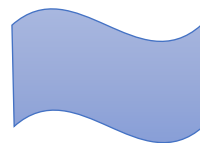
「東京府中ロータリークラブ第52回作文コンクール」

「銀賞」	2年	小林 環
「銀賞」	2年	平野 めぐみ
「銅賞」	2年	大田 隼士
「銅賞」	2年	山崎 菜々
「銅賞」	2年	岡山 結奈
「銅賞」	2年	堀松 航希
「銅賞」	2年	林 にご
「銅賞」	2年	細川 苺香
「銅賞」	2年	横山 晃多
「銅賞」	2年	渡辺 陶子



私の「心に残ったあの一言」

「人生楽ありゃ苦もあるさ」



主任教諭 上柳 真里

私が中3の時、体育科で担任だった鴫田先生はとても厳しいバレー部の顧問で、異動してきただけでしたが大会でも成果を上げていました。授業では、「苦手でもいい。全力でやることに価値がある」という先生の言葉に励まされ、私は苦手でも自分のできる努力だけはしようと決心して、頑張って取り組んでいました。そんな強くたくましい鴫田先生が、「何度言っても言うことを聞かないクラスの生徒たちが、他の先生から非難されたことが悔しい」と教室で泣き始めました…。「鬼の目にも涙…」とみんな驚き、静まり返ったまましばらく涙を流している先生を見つめていました。そして、しばらくすると先生は、「私は『人生楽ありゃ苦もあるさ』の詩（当時の国民的時代劇「水戸黄門」の主題歌）が好き。苦しいことの次にはいいことがある。と信じて、私はやるべきことはやり、みんなと付き合っている。」と涙を拭きながらおっしゃいました。その言葉と、先生の涙がとても心に残り、クラスも少しずつ雰囲気が変わっていききました。そして、この詩は私の心の指針となりました。先生とは今も年賀状で繋がり、元気をいただいています。

『人生楽ありゃ苦もあるさ 涙のあとには虹も出る 歩いてゆくんだししっかりと 自分の道をふみしめて。
人生勇気が必要だ くじけりゃ誰かが先に行く あとから来たのに追い越され 泣くのが嫌ならさあ歩け。
人生涙と笑顔あり そんなに悪くはないもんだ なんにもしないで生きるより 何かを求めて生きようよ』

(「ああ人生に涙あり」 山上 路夫)